

自然を守る人々

北区の長い歴史の中で、開拓期の姿のまま残っている自然―。

北区の開発とともに、人の手により新たに整備された自然―。

そのいずれもが私たちの暮らしに潤いと安らぎを与えてくれる。

私たちは自然をどのように守り、育てていけばよいのだろうか―。

今月は、区内の自然を守る活動に取り組む団体を紹介します。



篠路福移湿地の動植物の緊急避難場所として茨戸川河川敷地に造ったピオトープに、水生植物のヨシのほか、ヤゴやカエルなどを移す会員たち

―カラカネイトトンボを守る会―

周辺地域の開発によりその面積を小さくしている篠路福移湿地。ここに生息する希少種カラカネイトトンボを代表とする貴重な生き物の保護と湿地の保全を目指し、同湿地での自然観察会、生き物の救出・移植などを実践している団体。また、あいの里公園内のトン

ブス沼では、自然の多様性維持のための環境整備活動に取り組むほか、小学生対象の昆虫採集会、ホタルの放流・観察会を開催している。日ごろの活動の中で、地域住民とともに地域の自然に触れ親しみ、その大切さを学びながら、環境保全活動を進めている。